

令和8年4月6日

墨田区立外手小学校
校長 柿沼 広美

令和8年度 墨田区立外手小学校 学校経営方針

本校は教育目標として「人権尊重の精神を基調として、国際的な視点に立ち、積極的に社会に貢献できる児童の育成を目指す」、スローガンに「世界へ か・が・や・け 外手の子」を掲げています。

「世界へ」は、国際理解教育の推進と充実をめざす意味を込めています。

「かがやけ」には、「か」…「かんがえる子」、「が」…「がんばる子」、「や」…「やさしい子」、「け」…「けんこうな子」とそれぞれがめざす児童像を表しています。

今年度も学校教育目標の実現のために重点とする「めざす児童像」「めざす学校像」「めざす教師像」を具体的に示し、充実した教育活動を進めてまいります。

めざす児童像は、「自分もひと大切にできる子」です。まずは自分のことを大切にでき、同じように他の人をも大切にできる子、つまり自他の生命を尊重する子、思いやりをもって他者に接することのできる児童の育成を重要とするという意味を込めています。自分の生命を大切にすることは、心身の健康を保持増進すること、夢や希望をもって生きること、人生において自己実現することの基盤です。家族や知人友人をはじめ、学級、学年、学校等の所属意識と愛着、幼い人への優しさや高齢者への親切、障害者理解へと広げていくことを期待しています。また、地域から世の中全体、世界へと社会とつながる自己の理解、社会性の基礎となります。他者は「ひと」だけでなく「生き物」「自然」「資源」「地球」へと意識を向け、全ての命を慈しむ態度や心情、自然愛護、環境保護などのSDGSへとつなげます。

めざす学校像は、「子や孫を通わせたい学校」です。保護者や地域の方々が自分の子や孫を通わせたいと思っていただける学校をめざします。そのために、安全で安心な教育環境を確保し、その中で、児童に「知・徳・体」を身に付けさせ、すべての児童が自らの目標に向かってよりよい行動をし続け個としても集団としてもかがやく学校にしていきます。

めざす教師像は、「使命感のある教師」です。児童のことを一番に考えて主体的に職務に取り組み、自己研鑽に励み、指導力を向上させ、仲間と支え合う明るい教師集団を作ります。

今年度もこれらの重点目標を目指して教育活動を進め、学校教育目標を達成していきます。そして、教職員一同、心と力を合わせて、「世界へ か・が・や・け 外手の子」に全力で取り組む所存です。開校111年目、昨年度全校でお祝いした百十周年の節目からつながる1年になります。本校のよき伝統と誇りを大切に、地域と共にある学校として尽力します。外手の子のために皆様の一層のご理解とご協力をいただきますよう、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今年度の重点課題は以下の通りです。

学習指導

確かな学力の定着

- ・学力調査結果に基づいた授業改善推進プランを踏まえ授業改善を行う。
- ・各学年各教科の指導計画の作成、見直しを行う。

学習意欲の向上

- ・児童の主体性を育む双方向型の授業を全学級全教科で行う。

個別最適な学び

- ・児童一人一人に応じた学習方法、課題解決方法を生かす授業を行う。
- ・一単位時間一単元の中で学んだことをアウトプットする活動を行う。

協働的な学び

- ・ペア、トリオ、グループ等、多様な児童同士が関わり合い学び合う活動を行う。

指導と評価の一体化

- ・基準を明確にした学習改善、指導改善につながる評価を行う。

生活指導・進路指導

いじめ・不登校対策

- ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応を行う。
- ・生徒指導提要进行を踏まえた生活指導を組織的に行う。

魅力ある学校づくり

- ・夢や希望の実現に向けて児童の意欲や態度を育む取組を行う。

言語環境の向上

- ・全校で優しさと思いやりを育む挨拶と丁寧な言葉遣いの指導を行う。

人権感覚の醸成

- ・一人一人を大切にする関わり、教育環境、文書作成、個人情報管理を行う。

レジリエンス教育

- ・立ち直る力、不安への対処方法、コミュニケーションスキル教育を行う。

人権教育

- ・全教育活動を通じて東京都の人権課題を踏まえた人権教育を行う。

道徳教育

- ・考え、議論する道徳の時間の指導の充実と工夫を行う。

安全・防災教育

- ・危険を予測・回避する力を育む生活、交通、災害、命の安全教育を計画的に行う。

学校運営

カリキュラムマネジメント

- ・目標と取組の整合性や関連、系統性を効果的に配列した教育課程を編成する。
- ・「社会に開かれた教育課程」の理念を念頭に豊かで魅力ある教育活動を実施する。

- ・デジタル技術の活用とペーパーレスの推進により紙配布物を削減し校務を合理化する。

地域連携

- ・地域、関係機関と連携し、学校内外の人的物的資源を活用して教育内容の充実を図る。

学校評価

- ・学校評価を行い、保護者や学校運営連絡協議会委員の意見を教育の充実改善に生かす。

危機管理

- ・危機管理意識を高め、法令遵守、適切な指導、適正な事務処理を行う。

特別活動・その他

インクルーシブ

- ・学年学級を超えた交流活動、交流学习を活発に行う。

自治的自立的活動

- ・子ども基本法等を踏まえ、児童の意見や考えを生かした学校づくりを行う。

話し合い活動

- ・学校生活をよりよくするために話し合い、決めたことを実践する力を育む。

幼保小中の絆づくり

- ・近隣他校園と連携し、思いやりの心を育み、進路指導・職業教育を行う。

よりよい学校環境づくり

- ・地域の特性、児童の実態を踏まえ文化、スポーツ活動を推進する。
- ・定時退勤日、ノー会議デーを毎月設定し教員のライフワークバランスを推進する。

能力開発（O J T、研究・研修、自己啓発）

研究・研修

- ・校内研究を充実し、O J Tの機会を意図的計画的に設定する。

指導力の向上

- ・校内外の授業研究、研修、発表会への参加、文献等により自主的積極的に学ぶ。

専門性の習得

- ・キャリア、経験年数、職層に応じた組織貢献と自己研鑽による資質能力を高める。
- ・指導教諭の情報発信、意識啓発を契機に全教員が特別支援理解を深める。
- ・主幹教諭の知識や経験を全教員が共有し職務を通じて専門性を向上する。
- ・強みや得意を教員同士で学び合い、相互研鑽を図る教員集団になる。
- ・疑問や悩みは教員同士で伝え合い、早期に対応して不安を解消し問題を解決する。